

自分の思いをもち、すすんで表現する図画工作科学習

1. 設定理由

図画工作科の「造形的な見方・考え方」の特徴は、知性と感性を共に働かせて対象や事象を捉えることである。身体を通して、知性と感性を融合させながら対象や事象を捉えていくことが、他教科以上に図画工作科が担っている学びである。

本校の教育目標「気づき・考え・行動する児童の育成」を、図画工作科に当てはめると、自分の思いがもてるようにすることや自分なりの表現方法を見つけられるようにすることである。そのためには、感性、想像力、手や体全体の感覚などを働かせながら様々なことに気づき、自己との対話や友だちとの交流を通して考え、自分らしい表現ができるようにしていくことが大切である。

本校の児童は、明るく素直で、与えられた課題に対して熱心にとりくむことができる。しかし、自分で考えたり自分なりの方法で表現したりすることは苦手である。題材と出会ったときに、「どう表現したらいいだろう」と悩み、自分なりのイメージをもつことができない児童が見られる。

図画工作科の時間は、自分で考えて新しいものをつくり出せる時間である。指導者は、児童が素材と出会い、考えたり、体験したり、失敗したりしながら、自分らしい方法を見つけられるような働きかけをしていくことが大切である。

そこで、素材と出会い、活動を思いつくことができるような題材の与え方とともに、児童がイメージをもてるような指導者の働きかけがとても重要だと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

つくりたい物を形にすることができるように、自然材料の組み合わせなどを試す場や自分のイメージをスケッチや掲示物から考えられるような働きかけをすれば、自分の思いをもち、イメージを形にするための具体的な方法を考えることができるであろう。

3. 研究内容

- 理論研修
- 材料や場との出会いや働きかけの工夫
- 授業実践

4. 結論

- 材料や用具、場の工夫、活動の見通しがもてるスケッチや掲示物などの働きかけを工夫したことにより、発想やイメージが広がり、自分のつくりたい物を形にして表すことができた。

1 研究テーマ

自分の思いをもち、すすんで表現する図画工作科学習

2 テーマ設定の理由

(1) 今日の課題から

学習指導要領の中で示された「生きる力」を支える「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和を重視するとともに、学力の重要な要素として示しているのは、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」である。

図画工作科では、5つの方針が示された。第1に「思考・判断し、表現する基礎的な能力を育てる」、第2に「育成する資質や能力を共通事項として示す」、第3に「形や色などによるコミュニケーション」、第4に「鑑賞活動において自分の思いを語り合う」、第5に「美術文化の継承と尊重」である。

新しい学力の考え方は、人が生きていく上で身につけておくべき、欠くことのできない能力として、国語や算数などの道具的な教科と並んで図画工作科の造形活動の必要性をあげている。造形活動には、表現する力、見取る力、コミュニケーション力など重要な活動が含まれているからである。自ら学ぶ意欲をもち、生涯学習を前提としたその基礎づくりを行い、日々の生活の中で習慣化してことが求められる。

(2) 学校教育目標から

本校の教育目標は、「気づき・考え・行動する児童の育成」である。「気づき・考え・行動する児童」とは、図画工作科においてどのような子どもの姿をイメージすればよいのか。子どもは、自分の思いや願いをしっかりともち、表現できた時に喜びを感じる。自分の思いがもてるようにすることや自分なりの表現方法を主体的に見つけられるようにすることが大切である。そのためには、感性、想像力、手や体全体の感覚などを働かせながら様々な場面で気づき、自己との対話や友だちとの交流を通して考え、自分らしい表現ができるようにしていくことが大切である。

児童が進んで学習にとりくむことは、「学び方」と「学習習慣」を身につけることであり、生涯学習の基礎になる。学習を工夫し、「自らつくり出す喜び」と「よさや面白さを感じ取る喜び」を実感できるような授業づくりにとりくみたい。

(3) 児童の実態から

本校の児童は、明るく素直で、与えられた課題に対して熱心にとりくむことができる。しかし、自分で考えたり自分なりの方法で表現したりすることが苦手である。題材と出会ったときに、「どう表現したらいいだろう」と悩み、自分なりのイメージをもつことができない児童が見られる。そのため、すぐに活動に取りかかることができないことがある。また、自分に自信がないため、友だちの真似をする児童もいる。図画工作科の時間は、自分で考えて新しいものをつくり出せる時間である。指導者は、児童が、素材と出会い、考えたり、体験したり、失敗したりしながら、自分らしい方法を見つけられるような働きかけをしていくことが大切である。

以上のことから、素材と出会い、活動を思いつくことができるような題材の与え方とともに、児童がイメージをもてるような指導者の働きかけがとても重要だと考え、本主題を設定した。

3 研究のねらい

図画工作科の学習において、自分の思いをもち、進んで表現することのできる児童を育成するために、どのような学習活動を展開することが望ましいのか、実践を通して明らかにする。

4 研究仮説

つくりたい物を形にすることができるように、自然材料の組み合わせなどを試す場や自分のイメージをスケッチや掲示物から考えられるような働きかけをすれば、自分の思いをもち、イメージを形にするための具体的な方法を考えることができるであろう。

5 研究内容

- (1) 理論研究
- (2) 材料や場との出会いや働きかけの工夫
- (3) 授業実践

6 研究の実際

(1) 理論研究

ア 図画工作科の授業は、**正解がない**

発想＝夢見る力（どんなふうに表示ばいいのかな。こんなものを作りたい。）
構想＝組み立てる力（どうやったらできるかな。）
技能＝夢を形にする力（どんなやり方でできるかな。何をを使えばできるかな。）

○自分らしさを出す。→学級経営がもとになる。

学級で自分の位置が認められていることが大事である。

○教員は、子どもに、どんな力をつけたいのかをしっかりとみつ。

○教員は、子どもに共感する。→わかろうとする。子どもをやる気にする言葉をかける。

○子どもの小さな変化を見逃さない。

→どうしてそうなったのか、子どもによりそって見取っていく。

○アイデアを発見したら→大きな声で呼びかける。

「ここで、こんなことをしている人がいるよ。」

「このアイデア、使えるんじゃない。」

○安全に直結するもの→上手く使いこなせるようにする。

(グルーガンやのこぎりなど)

イ 図画工作科の技術とは

○技術は、「上手い、下手ではない。」

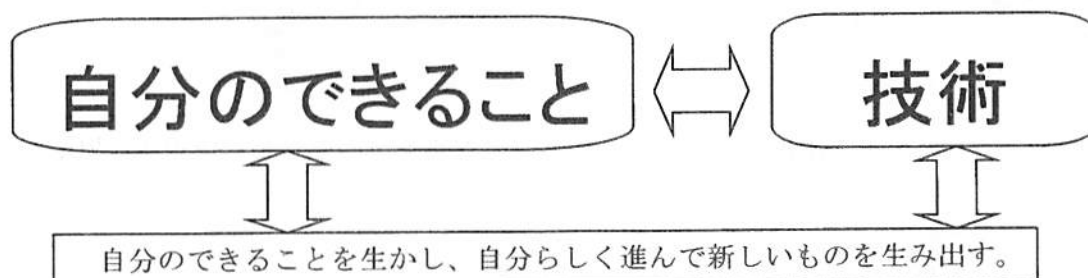


技術は、自分の外側にあるものではなく、

自分が、つくりたいという気持ちとともにある。

他人の評価などまったく気にすることなく、

自分だけのゴールに向かって 活動する。



自分のできることがたくさん増えるよう、教員は、児童に、材料や用具との出会いをどんどん提供し、楽しい発見のたくさんつまった授業を子どもと一緒につくっていく。

子どものよさをまるごと認める

(2) 材料や場との出会いや働きかけの工夫

「自然からのおくりものでづくり隊」 3年生の授業において

ア 材料探しの方法

○ 生活の中から材料を集める（1カ月前から） 宝箱の中に入れる。

＜自然材料＞木の枝・木の葉・石・竹・しゅろの皮・木の皮・おがくず・笹の葉・つる・木の実・貝殻・木切れ・ドングリ・松ぼっくり

子どもたちにとって、新たな材料との出会いは、豊かな発想を生み出す大切な機会である。

- ・ 休み時間に校庭に出て遊んだ時にも、「この枝は使えそう。」「この葉っぱもいいね。」などと、探したものを教室の宝箱に入れた。
- ・ 近くに山や草原などがある家庭が多いので、家庭でも材料集めをするよう呼びかけた。

- ・ 材料を見つけてきた時や持って来た時には、朝の会や帰りの会などで、みんなに紹介した。自分たちの使う材料を自分たちで意欲的に集めることにより、作品づくりへの興味・関心も高まった。

イ 掲示資料

○ 用具の使い方

- ・ 用具を安全に使えるようにするために、下記の用具の使い方を作成し、図工室に掲示した。

「ホットボンドの使い方」	「のこぎりの使い方」
「カッターナイフの使い方」	「小刀の使い方」



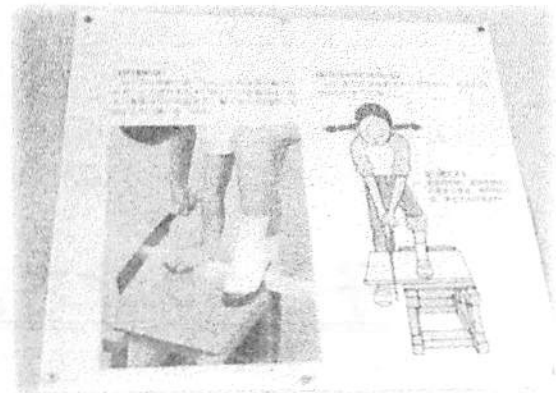
《写真1 グルーパーを使用する児童》



《写真2 のこぎりを使用する児童》



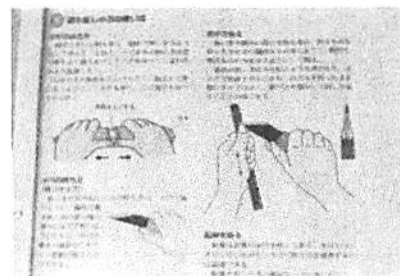
《写真3 グルーパーの使い方》



《写真4 のこぎりの使い方》



《写真5 カッターナイフの使い方》



《写真6 小刀の使い方》

- ・ 用具を使用する時には、掲示物で確認したり、友だちどうして注意し合ったりして、安全に使えるようになった。

ウ 学習ガイド

時間	学習内容	準備
○	1 材料とふれ合い 何がつくれるか考える。	自然材料 スライム
○	2 自然材料をどのよう に変身させるかイメージし ながらつくる。 ○どの材料をどのよう に使うか。	ダンボール 自然材料 木の枝・木の皮 竹・木の皮 木の皮 グルーガン のこギリ 小刀・ドリル
	◎用具を安全に使う	
	3 自分や友だちの「さや ちがい」を伝え合う	

《写真7 学習ガイド》

学習ガイドは、題材を見通した学習計画を立て、学習の見通しをもたせ、児童自身に学びを考えるようにするためである。

学習ガイドは、以下の点に留意して作成した。

- ・ 児童の思いがある。
- ・ 学習の流れ（時間・内容）をつかませる。
- ・ 学習しながら、気づきを書き込む。
- ・ 学習のしかたを考えるヒントがある。

学習スタートの前に学習ガイドを提示することにより、意欲的に学習に取り組むことができた。

見通しをもって、振り返りや繰り返しのある学習ができた。

エ 「学び方スタンダード」と「困ったときは？」の掲示物

学習に主体的に取り組むために「学び方スタンダード」をつくり、児童に定着させたいと考えた。児童に「主体的な学び」を育成させるためにも、個人活動の方法の定着が大切である。

つくる時の手順

- ① 材料を机の上のどこにおくか
→ 黒板を見る
- ② 道具を使うときの安全確認
→ 掲示物、カード
- ③ 今日の自分のめあてを確認
- ④ 自分のイメージをはっきりさせる、広げる、深める
- ⑤ アイデアスケッチを見る
→ 活動をスタートする

《写真8 つくる時の手順》

児童は「学び方スタンダード」を使用し、学習のしかたを徐々に身につけてきた。

机の上の置き方

台紙上
製作中
の作品

自然材
料など

持ってきた材料
や選んだ材料
はさみ

困ったときは

どちらにしようか
迷っている

- ・ 材料をいくつか試してみよう
- ・ 参考作品を見てみよう
- ・ アイデアスケッチをいくつかかいてみよう

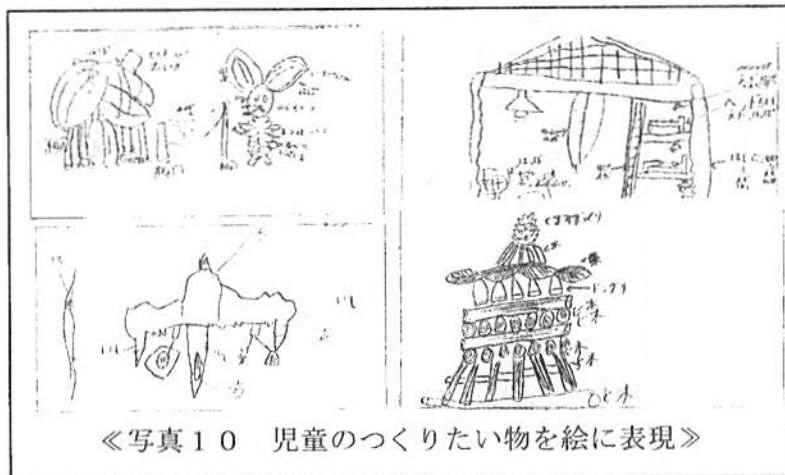
どのような技法を
使えばいいかわからない

- ・ 掲示物やカードを見よう
- ・ 友達の作品を見てみよう
- ・ 先生にアドバイスをもらおう

《写真9 困った時の学び方》

困った時には、どのようにしたらよいかを資料を見て考え、次の行動をとることができるようになってきている。

オ 自然からのおくりものでつくり隊 スケッチ



《写真10 児童のつくりたい物を絵に表現》

児童に「自分のつくりたいもの」と投げかけた時、悩んでしまう子が多かった。

自分のつくりたいものを形にする第一歩として、絵で表現した。絵にかいた通りにつくるのではなく、材料と向き合い、どんどん変えていっていいことを話した。

カ 働きかけの工夫

<働きかけの内容>

① さげたい言葉

指示的な言葉「～しよう。」

否定的な言葉「～おかしいよ。」

評価観を示す言葉「上手に描けているね。」

「上手に～」は、方向付けにならないように使う場合もある。

子どもの表現を否定しないようにする。

② できるかぎり、活動を見守り、話を聞いたりしながら、子どもの考えや心の動きを読み取る。

表現する時の子どもの気持ちを理解する。
子どもたちの気持ちによりそう。
自信をもたせる。

③ 造形活動が広がっていくような場を確保する。

④ 材料や用具を準備し、造形活動が広がりやすくする。

⑤ 発想が広がるように題材を提示する。

- ・ 図工は、子どもたちが思う存分造形活動を楽しめる空間と時間を保障する。
- ・ 制約を少なくする。→準備や工夫が大事である。
- ・ 教員は、様々な感性を認められる心の柔軟さが大切である。

<動機づけ>

① 「素材」との出会い→素材の選択が大事。形に変化が期待できる。自然の中の物。

② 子どもの思考の流れに応じたきっかけづくり

③ 動機づけの機会

【出会い】

- 「おもしろそうだ」 (興味・関心)
- 「やってみたい」 (動機の発生)
- 「できそうだ」 (見通しをもつ)
- 「こうしたい」 (自発性の発生)

【初期動機づけ】

- ・ 題材に関する体験・経験など。
- ・ 素材へも愛着や親しみをもつ。
- ・ 生活体験や学習したこと。
- 自信をもって、自分らしく表現するためのきっかけとなる。

(イ) 働きかけの工夫

- 教員は、「絶対に子どもの表現を否定しないようにする」を念頭に置き、共感的な言葉をかけるように心がけた。
- 導入時に、自然材料が何に変身できるかについて出し合ったり、そこから連想できるものを話し合ったりする活動を取り入れ、イメージを明確にしたり、イメージを広げたりできるようにした。その話合いで具体的に述べられたキーワードをその場で板書していくようにした。また、自然材料でどのようなものをつくりたいかを描いておき、すぐに活動にとりかかれるようにした。教員は、児童がとまどっている時には、スケッチを見ながら一緒に考えるようにした。
- 用具を安全に使用できるように、グルーガン、のこぎり、小刀、ペンチなどの使い方を資料として掲示した。児童は、グルーガンやのこぎりなどを使用する時に、後ろの掲示物を見て用具を使う時の注意点について確認したり、友だちどうしで声を掛け合って使用したりした。グルーガンで小さな物をつける時には、ピンセットを使用した。小枝を切る時にも、周りの安全を確かめてから切るようにした。
- 材料がたくさんあれば失敗を恐れずに、試行錯誤を繰り返すことができると考え、材料を個人で集めたり、他学年に呼びかけたりして用意した。材料集めには、1カ月半くらい前からとりくむようにした。
- 思いを表現するために材料を選択して使っていく際、教員の働きかけが造形要素への気づきを左右する。十分に時間をかけて素材と触れ合わせ、その特徴に気付かせるようにした。
- 活動を楽しめる時間を保障するようにした。制約を少なくし、できるかぎり活動を見守るようにした。

(ウ) 鑑賞活動

- 作品の完成後には、友だちの作品のよさや工夫を見つけて発表するという場を設定した。よさを見つけるためには、作品の隅々まで目を凝らし、友だちの作品のよさや工夫を発見しなければならない。友だちからの発表が終わってから本人が作品を紹介するようにした。

(エ) 自分なりの表し方を工夫する児童の様子



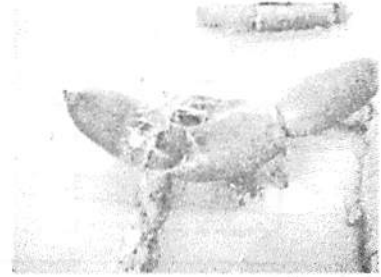
《写真13》

松ぼっくりとドングリでラケットをつくったよ。



《写真14》

松ぼっくりはイチゴ。おいしいケーキができた。



《写真15》

グルースティックや木の枝でライオンのたてがみをつくったよ。

(オ) 友だちの工夫を見つけた児童の様子



《写真17》

ケーキづくりのボールをドングリぼうしでつくっているよ。



《写真18》

大きなドングリに小さなドングリをつけて、動物の顔にしているよ。



《写真19》

丸く切った木を3つつないでベットにしているよ。

7 成果と考察

(1) 成果

- 豊富な材料を準備して、素材と触れ合う時間をとったことにより、素材の特徴を生かして使うことができた。松ぼっくりに木の枝をつけて動物にしたり、木の枝を組み合わせて家にしたりと工夫することができた。
- 活動の見通しがもてるように、スケッチや掲示物の働きかけをしたことにより、主体的に活動にとりくむことができた。活動中に困ったことが起きた時には、すぐに教員に聞きにくるのではなく、「材料をいくつか試してみる」「友だちの作品を見る」などして、「こうすればいいかな。」や「こうしてみよう。」と考え、自分で乗り越えて、最後までねばり強く活動していくことができた。
- グルーガン、のこぎり、小刀、ペンチなどの用具の使い方について、実際に使い方を練習したり、注意点を写真や言葉で表した掲示物を用意したりしたことにより、安全に気をつけながら、活動することができた。小さい物や細かい物を接着する時には、ピンセットを上手に使うことができるようになってきた。
- 児童のよさを認める共感的な言葉かけを心がけたことにより、活動への意欲が高まり、自信をもって表現活動に取り組む姿が見られた。

(2) 課題

- 教員の共感的な言葉かけについて、どこで、どのような言葉かけを行ったらよいかをさらに研修していきたい。
- 子どもを認めてあげる教員の目をもてるように、自分自身を高めていきたい。
- 子どもに題材として与える前に、まず、自分で材料と向き合い、作品を作ってみることが大事なことだと思う。そうすれば、児童がどこで、どのように困るかなども見えてくる。児童の活動が止まってしまう場面や困っている場面で、どのような働きかけが必要になるかを想定し、指導に生かしていきたい。実技研修を大切にしたい。

自分の思いをもち、すすんで表現する図画工作科学習

資料編



香取市立小見川東小学校

林 純也

人見 幸子

(授業仮説)

作りたいものを形にすることができるように、自然物の材料の組み合わせなどを試す場や自分のイメージをスケッチから考えられるような働きかけをすれば、自分の思いをもち、イメージを形にするための具体的な方法を考えることができるであろう。

1 題材名 自然からのおくりもので作り隊

2 題材について

- 本題材は、学習指導要領の目標(2)「材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする。」A表現(1)ア「身近な材料や場所などをもとに発想してつくること」(2)ウ「表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと」B鑑賞(1)イ「感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じ方の違いなどが分かること」、共通事項(1)イ「形や色などの感じをもとに、自分のイメージをもつこと」に関する内容である。

本題材は、一つとして同じものがない木の枝や木の実などを素材として取り上げ、形や色、手触りなどから想像を広げ、今まで学習してきた表現方法から自分の思いやイメージに合う方法や材料を選択したり今までの学習をもとに工夫したりして、表現することが出来るようにと考えるこの題材を設定した、材料の組み合わせを試しながら、思いついたものの表し方を工夫することをねらいとしている。児童がスケッチをもとに自由な発想で作れ、次々に広がっていく表現の楽しさを味わうようにしたい。

- 本学級の児童の実態を考慮、考察し、以下の点に留意して指導にあたりたい。

(男子10名 女子8名 合計18名)

<関心・意欲・態度>

- ほとんどの児童が図画工作科を好きだと答えている。その理由としては、いろいろなものを作ることが楽しいからである。特に、工作や立体の学習を好む児童が多い。

<発想・構想の能力>

木の枝や木の葉の形から何を想像できるかの課題に対して、ほとんどの児童がイメージを広げながらつくることが出来た。しかし、数名の児童は、木を眺めているだけでなかなか想像することが出来なかった。また、友だちの意見に左右されやすい面もある。

本題材では、導入時に、集めた材料と触れ合う時間を十分に取、材料を見つめ直したり選んだりしながら表したいことを見つけるようにする。この活動は、自分の思いを確かめたり、自信をもって表現に取りかかったりするための機会となる。次に、スケッチを作成し、どのような作品を作りたいか、どんな形にしたいかなど、具体的にイメージできるようにする。また、児童が発した言葉の中からどの材料がどのようなものに変身できるかを掲示しておく。それらが文字となって、目に入ることで、材料の形や色に着目し、造形に向かう児童の計画的な意図を促したいと考える。

<創造的な技能>

児童は、自分のイメージを粘土などで作ったり、はさみを使って紙を切ったりして、表現する技能はだいたいの身につけている。本題材では、木の枝や木の葉を使用するが、木の枝や葉など自然物の特徴に気付かせ、どう生かしていくかを考えられるようにする。そのために、素材と十分に時間をかけて触れ合わせ、その特徴に気付かせていく。また、「伝え合い活動」において広がったキーワード（掲示物）を振り返ることにより、自分のイメージを具体的な形にするための手段を考え表現させたい。用具の中でも、グルーガンは火傷への配慮が必要である。そこで、小さいものをつける時などの細かな作業の際は、ピンセットを使用し、児童が安全に取り組めるようにする。また、のこぎりや小刀の使い方についても、事前に十分指導してから学習に入るようにする。

<鑑賞の能力>

これまでの鑑賞学習において、児童は友だちの良いところを見つけたり、児童どうし質問をしながら賞賛したり共感したりしている。作品を作った際に、そのイメージについて話し合う時間を設定する。作者が作品について説明する前に、みんなが作品から思ったことや感じたことを話し合う鑑賞活動を行う。その後、作者が自分の作品について紹介して、話し合いをさらに深めるようにしたい。

3 題材の目標

①関心・意欲・態度	②発想・構想の能力	③創造的な技能	④鑑賞の能力
○ 自然材料の特徴を感じ取り、自然材料を効果的に使いながら、自分が納得するように表そうとしている。	○ 木の枝や木の葉などの自然材料を生かしてどのように作るかを思いつき、材料の組み合わせや表し方などを考えることができる。 <材料> ・ 木の枝や木の葉などの自然材料	○ 自然材料の特徴を生かして組み合わせ、自分なりの表し方を工夫することができる。 <用具> ・グルーガン・のこぎり ・小刀・はさみなど	○ 自分が友だちの表現のよさや違いなどを味わい、感じたことや思ったことを伝え合うことができる。

4 指導計画（6時間扱い）

- ・ 材料について話し合い、何が作れるか想像しよう・・・・・・・・・・1時間
- ・ 自然物をどのように変身できるかイメージしながらつくろう・・・・4時間
- ・ みんなの作品を見せ合い、よさを感じあおう・・・・・・・・・・1時間

5 本時の指導

（1）目標

- 関心・意欲・態度 ○ 自然物から感じとったことや想像したことを自分なりに表現することを楽しもうとしている。

発想・構想

- 木の枝の色や形、感触などから発想して、自分なりの作り方を考えることができる。

創造的な技能

- ◎ 自分の思いに合わせて、材料や表し方を工夫することが出来る。

鑑賞

- グループに分かれて作品を鑑賞し、それぞれの良さや工夫を感じ取り、話し合うことが出来る。

(2) 展開

過程(分)	学習内容と予想される児童の活動	指導○と評価◎、A評価の姿(・)
導入 (5)	<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 作りたい形を考えて、自然物を使って作ることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スケッチを用意するが、材料と向き合い変えていってよいことを確認する。 ○ 小刀、のこぎりなどの使い方を掲示物で確認する。グルーガンで、小さいものをつける時には、ピンセットを使うことも確認する。
表現活動 (35)	<p>2 自分の思いをもとに、木の枝や木の実などを組み合わせ、工夫して表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 表したいものに合った材料を選ぶ。 「木の実や枝でライオンを表そうかな。」 「木の葉で飛行機の羽根を表そうかな。」 ○ 材料や用具の特徴を生かし、組み合わせを工夫する。 「松ぼっくりとどんぐりを組み合わせてテニスラケットにしよう。」 「木の葉とどんぐりのぼうしを組んで、ドアとドアノブを作ろうかな。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ イメージから広げられるように、素材を様々な方向から見たり、素材の向きを変えてみたりしながら、材料を選ぶように助言する。 ○ 木の枝や竹は、先がとがっているので持ち運びに気をつけさせる。 ○ ただ材料を組み合わせるのではなく、どこに何をつけるのかを考えさせる。 ○ 児童の意欲を高められるように、一人ひとりの思いを聞いたり賞賛したりする。 ○ 材料の組み合わせ方の違いや、新しい使い方など、友だちの表し方に着目して考えを広めたり、見方を変えたりするなど、多様な試し方を探るように助言する。 ○ 児童が自ら表し方を見つけるまで、活動を見守るようにする。

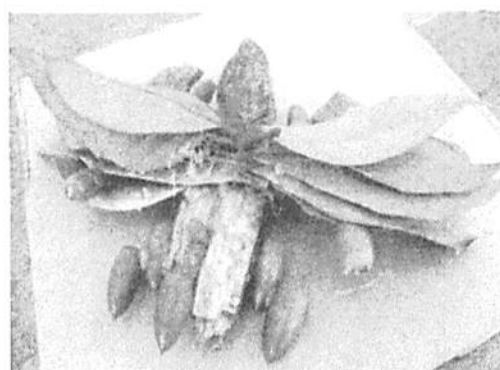
<p>ま と め (5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちの表し方に着目して、考えを広げたり見方を変えたりする。 「曲がった木の枝を人間の足に使ってみよう。」 ○ 友だちの表し方の工夫や良さに気づく。 <p>○ 片づけをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動しながら、友だちの工夫などに気づいた児童の言葉を教員が拾い、みんなに紹介する場合もある。 ○ 友だちのよさや自分の表し方の工夫やよさを認め合えた児童を賞賛する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 自分の思いに合わせて、材料や表し方を工夫することができる。 (活動・作品) ・ イメージに合う工夫をしている。 ・ 材料の組み合わせの違いや、新しい使い方など多様な表し方の工夫をしている。 ○ 試しながら表したいことを見つけ、形や色の良さを考えたり、材料を見立てたりできるように助言する。 </div> <p>○みんなで協力して、素早く片づけられるようにする。</p>
------------------------------	--	--

◎ 出来上がった作品を見た児童の感想



《写真20》

A 子さんは、ケーキを作ってあげようとしている人をどんぐりぼうしや木の枝で上手に作っていました。



《写真21》

B 男さんの作品は、葉を重ねて丈夫そうな飛行機の翼を作っていると思います。それから、エンジンをどんぐりで作ったところもすごかったです。

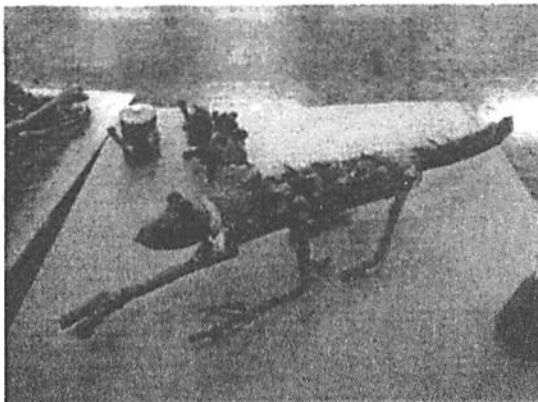
◎今回の学習で感じたことや思ったこと

く、したところは、木のえだで、スイツのクニを作ったところでは、自ぜんの中には、いろいろな物にへんしんできるたからものがあつた

グルーガンで、木をくみ立ててケーキのスポンジを作ったところが楽しかったです。木のえだや葉っぱをいろいろな物にへんしんできた。

木のえだを手足にかえたり、葉をうさぎの耳やベッドにへんしんさせたりして、おもしろかったです。はじめて、自ぜんざいりょうを使って、いろいろな物を作ることは、とてもたのしかったです。

◎ 同じ題材で取り組んだ5年生の作品



《写真22》

トカゲの親子をつくりました。トカゲの背中に松ぼっくりを小さく切つてのせました。子どものトカゲも、松ぼっくりでつくりました。



《写真23》

キャンプファイヤーの様子をつくりました。火の神の衣装は、木の皮でつくりました。フォークダンスを踊っている人の腕も木の皮を使いました。